

施策番号 5-3-1	施策名 シティプロモーションの推進	基本目標 住民と行政がともに考え未来へつなぐ自治のまちづくり	
		政策名 魅力を活かした、活気あふれるまちづくり	
	主管課 魅力創造課	課長名 西田 昌樹	内線 233
	施策関係課 政策推進課		

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果	
社会背景から生まれる町の課題を解決し、町の可能性の最大化を図るために、郷土愛(シビックプライド)を持った町民をはじめ、芽室を応援する気持ちを持った町外の人たち(濃い関係人口)を増やしていくことを目指します。		町民、町外の人(町を知った人、興味関心を持つ人、来られた人)	・この町のために何かをしたいと思う人を増やす ・この町の推進意欲、行動・活動への参加意欲、行動・活動する人への感謝意欲を高める				・住人の郷土愛が醸成される ・関係・交流人口による濃い関係人口が増える	
成果指標	説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標
① 芽室町の魅力を誰かにすすめたい推奨意欲	すまいるアンケート	%	28.2(R3)	23.3				60.0
② 芽室町をよりよくする活動への参加意欲	すまいるアンケート	%	19.7(R3)	13.9				50.0
③ 芽室町をよりよくする活動している人への感謝意欲	すまいるアンケート	%	69.6(R3)	60.4				90.0
成果指標設定の考え方	①町民の半数以上が推奨することを目指して施策をすすめる。 ②町民の半数以上が参加意欲を持つことを目指して施策をすすめる。 ③現在の数字に年5%上昇を目指して施策を進める							

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費(千円)	28,474	46,189			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2023年度の成果評価(基準年との比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	町が進めるシティプロモーション推進の方針や事業、活動、成果などが、広く町民の方々に広く伝わっていない。
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	シティプロモーション推進事業を始めその他の事務事業を進めるにあたり、町民の方の推奨意欲、参加意欲、感謝意欲の向上につながる町内に向けた周知、PR、参加、成果の見える化等を進めることで、目標の達成は可能と考える。
(2) 施策の成果評価に対する2023年度の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	定住促進事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	シティプロモーション推進事業に関しては比較的町外に向けての発信、PRが多かったことから、その取組を町民の郷土愛の醸成につなげていくことが必要になる。また結婚新生活支援や定住に対する奨励金事業など、人口減少対策の面が大きく、直接的な郷土愛の醸成につながりにくいものだが、これらの事業をきっかけに芽室町に住んだ方も含め、町民の皆さんに対し、本施策の取組をしっかりと説明し、理解いただくことで、今後の町民の方の郷土愛の醸成につながるような仕掛けや工夫が重要である。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	成果指標だけでは成果が見えたとは言えないが、最近の町内で起きている新たな町民の方の思いによる動き(まちづくり事業、まちづくりイベントなど)また、町外の関係人口・交流人口創出など、総合的に判断して「維持した」とする。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	

A: 実現した

B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した

C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した

D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した

E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <p>人口減少、少子高齢化、地域コミュニティの希薄化等社会背景から生まれる新たな地域課題は、地域の担い手不足、税収の減少、交通インフラの老朽化、空き家空き店舗の増加など、多岐にわたり、進行しています。</p> <p>《今後の予測》</p> <p>さらに課題の多様化が進み、持続可能な地域づくりが難しくなる恐れがある。住民の方ひとりひとりの地域への誇りや、郷土への愛を持ったまちづくりの推進が必要となる。</p>
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<p>・シティプロモーション事業は一部の関係者で実施していないか。もっと広く町民を巻き込む必要があるのではないかと。</p> <p>具体的な活動内容などを見える化し、関係者、団体組織との共有を図って進めて行くべき。</p> <p>→関係団体等への説明などを丁寧に進めているが、もっと広く全庁的な理解が進み、町内一丸となって事業を進めて行けるように進めて行く。</p> <p>・まちなか再生事業の具体的な動きが見えない。多様な人の声を聞いていない。</p> <p>→具体的な動きは毎年の実行計画の中で明確にしていきたい。事業実施においては関係する団体組織などと意見交換をしながら進めて行きたい。</p>

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

・シティプロモーション計画に基づく事業推進は、町民の皆さんにその進捗や成果など知ってもらうための情報を見える化し、町民参加による各種事業においては随時参加者を募り、郷土愛、町民参加のまちづくりを進める。

・まちなか再生においても公民共創という理念の元、できる限り住民参加を求めながら、住民自治のまちづくりの具現化を目指す。

・今まで進めている関係人口、交流人口の創出は今後も進めるとともに、それらの動きが町民の方に見えるような情報発信も進めて行く必要がある。

・全国にあるふるさと会の新会員の不足、高齢化により、運営の危機にある。郷土愛に根差した会の運営のサポート、新たな形での芽室町への郷土愛をベースにした仕組みづくりが必要である。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、維持したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	

今後の取組に対する意見  
 庁内・町民の皆さんに向けて、具体的な周知方法を考えてください。ほか、5に記載の取り組みを進めてください。

A: 実現した

B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した

C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した

D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した

E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に維持したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	

今後の取組に対する意見  
 ・次世代を担う高校生の意見を聞くのいいのではないかと。  
 ・個人的な意見だが、山村留学の子は、芽室高校までエスカレーター方式で進学できるといい。  
 ・町外向けのパンフレットを管外に設置をしたら観光に繋がるのではないかと。

A: 実現した

B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した

C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した

D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した

E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した